

今年は大変寒い冬です。和小でもインフルエンザが流行し、学級閉鎖の措置をとる学級が出てきました。流行に歯止めをかけるよう、学校としても取り組んでおりますが、ご家庭でもご協力をお願いいたします。さて、この寒い冬の光景から私の子どもの頃の体験を元に校長講話を本日いたしました。

雪の中の一歩道

今年は大変寒い冬となっていて、北の方では大変な大雪になっています。先日テレビを観ていたら、東北地方での小学生の登校風景が放送されていました。見ると吹雪の中、子どもたちが一本のひもにつかまりながら登校していました。すごい吹雪で、みんなひもをつかまることで、安全に登校しようとしていたのですね。インタビューも受けていましたが、その子どもたちは大変たくましく見えました。大震災に襲われた東北地方ですが、復興する中、東北の人たちの大変忍耐強い姿が印象的です。このような冬に耐えることにより、忍耐強さ、たくましが育つのかなと思うと同時に、私自身の小さいときのことが思い出されてきました。

私の生まれ育ったところは、白馬村という所です。長野オリンピックの会場にもなったところです。そこでの小さいときの思い出です。冬になると時として吹雪の中登下校することがありました。その頃は自家用車を持っている家は殆どなく、そのために今のように大がかりに機械などで除雪する必要はありませんでした。そこで登下校する道は家の人たちが分担して、「かんじき」というものを足につけ踏み固めて作ってくれました。学校に行くときも、帰るときもどんなにたくさんの雪が積もっても、歩くための一本道は必ずできていました。しかし、地吹雪となると容易に歩くことができません。地吹雪というのは強い風によって、降った粉雪が吹き飛ばされ、目の前が全く見えなくなるような状態のことです。あまりにひどい地吹雪だと、呼吸ができなくなることもあります。その様なときは、一緒に歩いている仲間と肩を組み丸くなってうずくまるように空間を作り、そこで「は一は一」と息をして、強い風が収まるのを待ちました。その時の、みんなで息をする音は今も私の頭の中に染みついています。その様な厳しい状態の時、かんじきで踏まれた一本道が、「頑張れ」という親の実際には言葉として聞こえない声として、私たちに伝わってくるようでした。

今、地吹雪の中の話をしてきましたが、どんなときでも車で親が学校に子どもを送るなどということは全くありませんでした。どこの家にも車はありません。たとえ、具合が悪くても自分の足で歩かないと学校に着けません。私の忍耐力・我慢する力の殆どは、この様に小学生の頃の毎日の生活の中で育ったものだと思います。実際、人間の我慢する力は小学生の頃までに育つと言われていています。それも、苦しい経験を乗り越えることによって育つと考えられています。皆さんはどうでしょう、毎日の生活の中で甘えてしまうことはありませんか。一つ付け加えます。私は、この様にかんじきで一本道を作ることによって、私を応援し、我慢する力を育ててくれた父親、母親に感謝の気持ちを伝えたいのですが、この様なことに気付くことができた今はもう、両親とも亡くなっていてできません。それが、残念です……

お知らせ

PTAの会合、参観日等で来校される場合、校庭を駐車場としてご利用いただいておりますが、雨、雪等により使用できないときは選果場・コミュニティセンター等をお借りするように考えております。その様な場合は、入口に案内を出しますのでご協力をお願いします。なお、相乗りでおいで頂くなどのご協力も重ねてお願いいたします。